

関連して検討すべき事柄も多くあるので、運営財政部会+提案者(小宮)+副会長で実務的に検討を進めることとした。提案を実行する場合には次年度になるが、その場合は12月理事会で決定する必要があるため、次回執行理事会で検討状況を報告する。

4. 地質学雑誌編集委員の更新について

委員一覧(新旧交代者)を確認し、次回理事会での承認を受けるまでは暫定委員とする。

5. 専任のIARの編集者を雇ってほしいこと(Island Arc編集委員会:田村)

受理直前原稿の体裁を揃える編集作業支援者雇用の要望を田村委員長が提案。田村委員長および板木前編集事務局長から現状の説明を受け、本来的には出版社がやるべきこと、最終的には編集長が責任を持つこと、著者に修正要求すべき、などの意見を交わした。提案のように学会が専門スタッフを雇用することは現実的ではなく、必要があれば編集委員会として論文単位でサポートを依頼する。費用は学会が年間20万円を限度として支出することを了承した。なお、CSS(体裁見本)を早急にまとめること、Wiley編集担当者と詳細を交渉し、その状況を随時執行理事会に情報提供することを編集委員会に要望した。

6. 2018年度の地学オリンピックへの協賛金は、会計状況を考慮し、例年より10万円減額し20万円を(1口5万円, 4口) 拠出することとした。

7. チバニアン問題への対応について。

先の理事会で会長預かりとした学会としての対応について、会長から学会としての学術的コメント(文案は学術研究部会に依頼)をWebsite等に掲載する旨の提案があり、これを了承した。

II 報告事項

1. 全体的報告

1) 地質学雑誌のあり方についてのアンケート(タスクフォース委員会)は6月号のNews誌、HP等に掲載し、geo-flashで回答の呼びかけする。期日は9月末。

2) 京都大学防災研究所の国際共同利用・共同研究拠点認定の推薦に関する要望書提出について、防災研究所からの正式な要請を受け、理事会決定通り文科大臣あての要望文書を送付した。

3) 一家に1枚ポスターの募集について、締め切りは6月21日(木)17時厳守。応募案: 県の石、モホ面

4) 防災学術連携関係報告

・6/5開催の防災学術連携体総会に連携委員の松田達生地質災害委員長が出席。同齋藤常務理事は欠席。これまであった連携委員の任期の上限は撤廃された

・第1回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」(6/5開催)には、松田、齋藤の両連携委員が出席し、地質学会の防災に資する活動の紹介として、齋藤が「ボクたちの”足もと”から地球のことを知

ろう」を紹介。

・防災推進国民大会2018(10/13-14, 東京ビックサイトそなエリア(東京臨海広域防災公園))にプレゼンブース「タイトル: 防災への第一歩: 子どもが学ぶ地球のこと」を申し込んだ。関東支部などにも協力を要請する。

5) 名誉会員、50年会員、各賞受賞者等への通知・案内状を送付した。

2. 運営財政部会: 総務委員会(緒方・西) <共催・後援依頼、他団体の募集等>

1) 平成31年度文部科学大臣表彰科学技術賞、若手科学者賞推薦依頼特に女性、海外を拠点に研究活動を行っているもの(締め切7/25, 学会締め切7/13) 詳細は文科のHP参照→ News誌、HP、geo-flashに掲載

2) 女性科学者に明るい未来をの会より2018年度「第39回猿橋賞」受賞候補者の推薦依頼(11/30メ切) → News誌、HP、geo-flashに掲載

3) 東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の公募(10/10メ切, 学会メ切8/31) → HP、geo-flash、News誌に掲載

4) 新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館より企画展示「ジオパークのミュージアム展」(7/7-8/31)の後援依頼を承諾。

5) 朝日新聞社主催の第16回高校生科学技術チャレンジ(JSEC2018)の後援依頼を承諾。

・高校生技術チャレンジJSEC2017の実施報告: 応募件数 174件 国内ファイナリスト6件13名を国際大会(USAピッツバーグ)に派遣。結果: グランドアワード2等1件、4等4件、スペシャルアワード* アメリカ数学会賞1件

6) 第54回アイソトープ・放射線研究発表会(共催)のプログラムが届いた。

7) 千葉県職員(地質職)の採用選考案内(応募受付6/1-6/21) → HP、geo-flashに掲載

8) 三浦半島活断層調査会: 城ヶ島観察会(5/20後援)の実施報告。参加者46名+スタッフ14名。

9) 東京大学海洋研究所より、学術研究船「白鳳丸」の平成31年度実施の研究航海に参加して実施する小規模研究募集(期限9/9)、および、東北海洋生態系調査研究船「新青丸」共同利用の公募(期限9/9) → HP、geo-flashに掲載

<会員>

1. 今月の入会者(79名)
正会員(22名)、正(院生割引)会員(55名)、正(学部割引)会員(2名)

2. 今月の退会者(正会員2名)

石田 克、五十公野裕也

3. 逝去者(正会員2名)

正会員(2名): 高橋有三(2018年3月31日)、金森邦夫(2018年4月13日)

4. 2018年3月末日会員数

2018年度第1回執行理事会議事録

期日: 2018年6月16日(土) 13:00~17:00

場所: 千代田寿ビル会議室(10階-1)

出席者: 松田会長 佐々木副会長 平田副会長 齋藤常務理事 安藤 ウォリス 緒方 岡田(15時以降?) 小宮 田村 中澤 西 廣木

前年度執行理事: 杉田 内藤 オブザーバー 板木、前IAR事務局(事務局) 橋辺 欠席者(委任状提出あり): 磯崎 大藤 坂口 辻森 星、前年度執行理事: 山田 渡部

*定足数(12, 委任状含む)に対し、出席者13名、委任状5名、合計18名の出席。

*前回議事録の承認

I 審議事項

1. 各部会、委員会で今期へ引き継ぐべきこと、それぞれ、現状や課題を検討した。

2. 「チャレンジ地球」—小学生のための地学オリンピックを実施する件

資料をもとに検討し、日本地質学会(地学オリンピック支援委員会)主催として行うことを承認。費用が発生した場合には学会として拠出する。筑波山ジオパークからの後援も打診してもらうことを提案。子どもゆめ基金web教材およびハンドブックの利用も推進する。

3. 非会員年会発表希望者への会費の特例措置について(提案 小宮)

賛助：28、名誉：57、正会員：3511（正会員：3391、正（院割）会員：116、正（学部割）会員：4）合計3596（昨年比 -69）
<会計>

・科研費の実地検査が8月～10月の間にある予定。

・地学オリンピックの協賛団体依頼、協賛金1口5万円、例年6口30万（予算化済み）。2018年度は20万拠出する。

3. 広報部会：広報委員会（坂口・小宮）

1) 一家に1枚ポスターの提案については、委員会で準備中

2) ジオルジュの発行について：ジオルジュ2018年前期号は発行済み、後期号も取材・編集作業進行中。前期号のフリーペーパー化による効果を検証の必要はあるが、とりあえず後期号を作ることは了承し、来年度のジオルジュ発行については9月の理事会で再審議する。フリーペーパー化や印刷費削減に向けた取り組みについても部会・委員会として取り組む。

3) 今後の広報部会活動として広報戦略の検討、英文Websiteの充実など

4. 学術研究部会（磯崎・ウォリス・岡田・辻森）

(1) 行事委員会（岡田）

・札幌大会関係：6/16に行事委員会を開催。発表演題申込み（シンポジウム含む）600件、昨年より50件ほど多い。

・2018年札幌大会のプログラム作成作業の報告。ポスター講演263件、口頭講演364件、小さなES応募は20件を予定

・コアタイムの時間設定（ポスター2件申込者への対応）の検討

・発表件数に応じた招待講演者枠の増員についての検討（来年度以降）

・国際シンポジウム（9/6午前）後の昼食、半日ツアーの計画・対応をLOCにも協力依頼

・国際シンポジウム招待講演者への対応についてとくに空港での送迎、お土産として「Geology of Japan」を各学会に贈呈することとした。

(2) 国際交流委員会（ウォリス）

・125周年記念シンポジウムの講演者について交流学会からの演題が出揃った。

・国際シンポジウム招待者への対応：上記のように国際交流委が行事委員会と相談しながら進める。

(3) JIS、標準担当（中澤）

・審議会があり作業を進めている。

(4) 大型研究計画提案（小宮）

・札幌大会の夜間小集会で、大型研究推進提案について検討・情報交換を進める。

5. 編集版部会（大藤・田村）

(1) 地質学雑誌編集委員会（大藤編集委員長、中澤副委員長）

1) 編集状況報告（6月15日現在）

・2018年投稿論文：51編 [内訳] 総説12（和文12）・論説24（和文22・英文2）・ノート（和文1）・報告7（和文5、英文2）・巡検案

内7査読中：42、受理済み：26（うち特集15）

・124巻5月号（通常号）：論説3、報告1、講座1（64ページ、6/4発送）

・124巻6月号（巡検案内書+通常原稿）：札幌大会巡検D、F、Gコース+通常原稿（論説2）：約85ページ、校正中）

2) 125周年記念特集号状況（掲載予定順、2018年3月改）

3) 編集委員会新体制発足→議案4項を参照（委員長）大藤 茂（副委員長）岩森 光・中澤 努 で5月19日より暫定的に運用を開始した。その他、編集委員会メンバーについては別紙参照。新体制については、9月理事会にて正式承認をとる。

(2) アイランドアーク編集委員会（田村）

1) 編集・特集号・投稿状況等の報告：編集作業分担（Editors, Executive editors）について状況報告があった。受理 - Early View - Issue掲載の所要期間について質疑した。

(3) 企画出版委員会（小宮）

・子どもゆめ基金web教材およびハンドブックの記載ミスが報告されているので、7月一杯に情報を集めて修正する予定。

6. 社会貢献部会（星・廣木・中澤）

・街中ジオ散歩共催の川崎市教育委員会に報告書を提出した。

・来年度の街中ジオ散歩イベントは5月12日（日）羽村市での開催を準備中であることが前任者の杉田理事から報告があった。

7. 地質技術者教育委員会

・前期は故山本副会長の担当であったので、委員会活動の現状を確認した。

8. ジオパーク支援委員会（平田）

・5/19ミニシンポジウム「日本地質学会のジオパークへの学術的貢献」を開催。各ジオパークから30人ほどの参加があり、3件の講演と意見交換をおこなった。札幌大会ではランチョンを開催し、ミニシンポジウムの内容をうけて来年の連合大会での関連学会との共催セッションについて検討をする。

・現在のJGC委員は学会からの代表委員ではないため、支援委員会委員でもあるJGC委員からJGCの情報等を、理事会に提供してもらうよう依頼する。

9. 地学オリンピック支援委員会（星）

・「チャレンジ地球」—小学生のための地学オリンピックを実施する件←議案2項参照。

・今年度において表記を試行的に実施することを検討、執行理事会の了承を得た。

・第12回国際地学オリンピック・タイ大会（2018/8/8～8/17）に参加する日本代表4名決定済み。

10. 県の石支援委員会（辻森）：とくになし

11. 125周年記念実行委員会（矢島）

・6/14委員会を開催 式典のまとめ：5/18記念式典出席者174名（うち来賓40名）、祝賀会出席者101名。式典関係の報告記事は8

月号に掲載予定、詳細は9月の理事会に報告予定

・ジオルジュ（英語版）を、海外の学会に出席する際のお土産にしてもらうためにgeo-flash等で宣伝する、また国際シンポジウム会場で配布する。

・国際シンポジウムの要旨（和英）のパンフレットを作成して、一般来場者にも配布予定。

2018年8月6日

一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長（代表理事）松田博貴
署名人 執行理事 斎藤 眞

2018年度第2回執行理事会議事録

期日：2018年8月6日（月） 13:00～17:30

場所：地質学会事務局

出席者：松田会長 佐々木副会長 平田副会長 斎藤常務 安藤 磯崎 緒方 岡田 坂口 中澤 廣木（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：ウォリス 大藤 小宮 田村 辻森 西 星

*定足数（12、委任状含む）に対し、出席者11名、委任状7名、合計18名の出席。

*前回議事録の承認

I 審議事項

1. 巡検時緊急対応用のレンタカー使用マニュアル：札幌大会において、緊急時用ということでレンタカーの使用申請があったため、マニュアルを作成し案内者に方針を示すこととした。

2. 啓林館発行「地学改訂版」教科書の点検について：日本地質学会から意見書を送付した経緯もあることから、改訂版が出版されたことに対し、出版社と文部科学省へ礼状を送付することとした。

3. 札幌大会での各種会議の設定について：支部長連絡会議（平田副会長担当）、専門部会長連絡委員会（磯崎学術研究部会長）をランチョンに設定し、支部長、専門部会長に開催通知を出す。

4. 9月理事会の議案

1) 地質学会各種委員会の再編・統合について

2) 地質学会主導の大型研究マスタープランについて

3) その他

II 報告事項

1. 全体的報告

1) 防災推進国民大会（10/13-14:東京ビッグサイト）の説明会が7/17に行われ、斎藤常務が出席した（回覧資料）。室内でのブースで、展示・啓発活動を行うので、関東支部に協力を依頼する。

2) 科学研究費の実地検査と意見交換会が9月18日（火）、10:00-12:00に実施される。学振からは2～3名の職員が来訪す

る。過去5年間の保存書類の確認と意見交換。斎藤、緒方が出席予定。

- 地球惑星科学連合の固体地球科学セクションより「夢ロードマップ」の改訂に伴う、固体地球科学セクションの改訂案に対する意見募集。特に意見なし。

2. 運営財政部会：総務委員会（緒方・西）
<共催・後援依頼、他団体の募集等>

- 1) 日本ゼオライト学会より、第34回ゼオライト研究発表会の協賛依頼を承諾した。
- 2) 原子力総合シンポジウム2018（学術会議総合工学委員会原子力安全に関する分科会主催）の共催依頼を承諾。
- 3) 沖縄協会より沖縄研究奨励賞の公募、募集期間7/15-9/30、沖縄を対象とした優れた研究、50歳未満、国籍問わず→News、geo-flash、HPに掲載
- 4) 朝日新聞文化財団より朝日賞（自然科学部門）の公募、メット8/24 → News、geo-flash、HPに掲載
- 5) 三井物産環境基金より2018年度環境活動に対する助成金の説明会開催、8/27 14時～16時半
- 6) 東北アジア研究センター公開講演会『玉（Gyoku）— その起源と東北アジア先史の「石」文化』（後援）の開催報告（辻森理事）：参加者一般市民89名で、盛会であった。
- 7) 千葉県教育庁より県立博物館職員募集、うち地質系1名 募集期間7/6-7/26→News、geo-flash、HPに掲載
- 8) 賛助会員役員交代挨拶：石油資源開発（会長渡辺修、社長岡田秀一）、（株）パスコ（会長小松良平、社長島村秀樹）
- 9) 学会役員交代挨拶：（公社）土木学会（会長小林潔司）、（一社）日本原子力学会駒野康男

<会員>

1. 今月の入会者（18名）

正会員（11名）：小原久典、KO Hyung Sik、佐久間幹、CHO Hyeh Goo、松田 寛、Chatterjee Sayantani、阿部彩子、貝羽哲郎、前原恒祐、磯貝晃一、金子尚人

正（院生割引）会員（6名）：COSTA Jovita、亀田夏帆、坂口イロナ、中野敬太、小椋千尋、安藤瑞帆

正（学部割引）会員（1名）：菅野萌子

2. 今月の退会者（正会員7名）

柳井修一、平中伸英、関 笙、吉倉紳一、貞本和志、梅村祐介、中西啓介

3. 逝去者（正会員1名）

青木 憲（2018/2/27）

4. 2018年7月末日会員数

賛助：28、名誉：57、正会員：3574（正会員：3403、正（院割）会員：164、正（学部割）会員：7）合計3659（昨年比 -79）

<会計>

・特になし

3. 広報部会：広報委員会（坂口・小宮）

・一家に1枚ポスター企画「県の石」、「モホ面」の2件が書類審査を通り、次のプレゼ

ン審査の資料を提出した。プレゼンの日程は、現時点では未定。

・ジオルジュ2018後期号は編集作業中、アポイ・ジオパークを取材中。赤字解消（収入確保・広告・残部販売・記事個別販売等）への努力について当初目標想定していた「支出20万円程度減額」の計画が提示され、当面、この計画に沿って支出を減額しながら、出版を継続することとなった。

4. 学術研究部会（磯崎・ウォリス・岡田・辻森）

(1) 行事委員会（岡田）

・札幌大会関係：参加申し込みは8月10日が締め切り、現時点ではCおよびIコースはあと1～2名、その他は実施可能な状況である。

・レンタカー使用マニュアル（巡検時の緊急対応用）→議案

・小さなESのつどい（9/7）：ポスターは展示するが、審査はデジタルファイルで行う。平日のため当日参加は15校中4校の予定。

・ポスター会場は9会場（2F、3F）となり、書籍販売、展示ブースは各展示会場に分散して配置する。アウトリーチ用ポスター掲示場所の隔離設置はできない。

・2019年度 山口大会：日程9月23日（月・祝日）～25日（水）、26日（木）～巡検実行委員長：脇田浩二。事務局：坂口有人 9/21-22（土・日）日本鉱物科学会 九州大学（福岡）開催予定との連続性を考慮する

(2) 国際交流委員会（ウォリス）

・国際シンポジウム（9/6午前開催）の各国代表者来札予定（9/5までに）が概ね内定。

・MOUの更新をこの大会中に行う（ロンドン地質学会、タイ地質学会）。両国の準備が整えば表彰式の前に交換を行う。

・表彰式・シンポジウムでの各学会のご挨拶：5学会（韓国、台湾、タイ、モンゴル、ロンドン）の代表の方々に、表彰式の前にご挨拶をいただく時間を設ける。

・交流学会との懇談 意見交換会：懇親会終了後では時間も遅いので、6日の昼食会を兼ねての実施が良いのではないかと。

・ミニツアー及び昼食会の件（9/6午後）
昼食会参加者：招待客10人、松田会長、平田副会長、磯崎、ウォリス、天野、矢島、竹下

会場：北大前のレストラン「えりも亭」
ミニツアーは検討中、3-4時間しかないのので1,2か所程度。

・千歳空港のお迎えの件：日本に滞在したことがある方も数人いらっしゃるの、ほとんどの方は、必要ないと思われる。どうしても必要という方がいれば対応する。

(3) JIS、標準担当（中澤）

・GTSの年代日本語表記の統一について検討中。

5. 編集出版部会（大藤・田村）

(1) 地質学雑誌編集委員会（大藤編集委員

長）

1) 編集状況報告（7月31日現在）

・2018年投稿論文：56編 [内訳] 総説13（和文13）・論説28（和文26・英文2）・ノート1（和文1）・報告7（和文5、英文2）・巡検案内7 査読中：44、受理済み：24（うち特集号16）

・124巻7月号：札幌大会巡検案内書B、Eコース+通常原稿（論説2報告1）（74ページ）

・124巻8月号：125周年特集号「日本の火成岩研究の進展と展望」4編、札幌大会巡検案内書2編（Cコース、実習プログラム）（計約100ページ）

2) 125周年記念特集号状況（2018年7月27日現在）

札幌大会巡検案内書（8月号）の掲載の都合上、予定より遅れているが着実に出版されている。2019年1月の会長年頭挨拶や2019年5月の総会等で総括できるように進める。

(2) アイランドアーク編集委員会（田村）

1) 出版状況報告

資料により出版状況を確認した。

2) 6月の執行理事会で審議したことのその後については、田村理事が今回欠席されたので次回に報告してもらう。

(3) 企画出版委員会（小宮）

1) Web教材の間違いについては利用者や理事から指摘をうけ、夏休み中の利用者も多いことを踏まえ近々に修正をすることとした。

2) 地質リーフレット たんけんシリーズ 城ヶ島、屋久島、箱根火山たんけんマップの残部が僅少になり、再版にあたって著者に修正の有無について確認中。城ヶ島については、今年度予算で再版予定であったが、代表者の蟹江会員から全面改訂の希望があり、これについては改めて企画書にて提案するよう伝えたが、改訂企画案が提案されたとしてもすぐに対応は難しいと思われるので、需要からみてこれまでの版を増刷することとした。

*8/7に城ヶ島の改訂について、蟹江会員が来所され事務局が説明を受けた。現在出版されているものとは出版の趣旨、内容および対象読者層も異なることから、改めて別物として出版企画案を提出すべきとして、まとも次第新規提案をするとのことであった。

6. 社会貢献部会（星・廣木・中澤）

・「次期高等学校学習指導要領案に対するパブリックコメント」の反映結果について、廣木理事より、意見は反映されなかったとの報告があった。今後も、地学教育の動向について注視していくとした。

7. 地質技術者教育委員会

・JABEE事務局より「国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズ、第12回」9/15芝浦工大の開催、募集案内→竹内委員委に回送

8. ジオパーク支援委員会 (平田)

・地震火山サマースクール (地質学会からも共催負担金20万円) の2019年度開催地が京都府宮津市 (NPO法人地球デザインスクール提案) に決定

・2018年 伊豆大島 (35名参加予定) で開催, 天候の都合で予定を縮めて1日のみ実施。

9. 地学オリンピック支援委員会 (星)

1) 出題委員の推薦: 地学オリンピック日本委員会の要請により出題委員を1名推薦した。

2) 小学生のための地学オリンピック—チャレンジ地球— (日本地質学会主催) の募集を開始した。

・クイズ30: 東京会場9/17, つくば会場10/7 募集人員 各30名

・ジオパーク探検: 10/8 筑波山地域ジオパーク, クイズ参加者対象, 保護者同伴募集

・つくば山地域ジオパーク推進協議会に対し, 支援委員長名で講演を依頼した。

3) IGEO (国際地学オリンピックの元締め機関) の4年に一度の会議がブラジルで開催され, 久田会員が日本委員会から出席した。4年後の2022年には日本での開催が決定した。地学教育学会がメインの学会として対応することになると思うが, 地質学会および地感連合にも協力を要請し, また, 組織委員等についてもいづれ依頼がある予定。

4) 第12回 国際地学オリンピック (タイ大会)

8/8~8/17に開催され, 日本からは代表4名, ゲスト2名が参加した。

10. 県の石支援委員会 (辻森)

編集の現状については, 最近報告をうけていないので, どのような状況であるかについて話題となった。状況確認の必要性和編集, 出版には学会として協力を惜しまないことを再確認した。

11. 125周年記念実行委員会 (矢島)

・国際シンポジウム (9/6) の会場配布用のパンフレット (英文・和文要旨掲載) を準備中。

・記念式典の報告記事はNews誌8月号に掲載。

12. 2017年度 地質系若手人材動向調査報告 (坂口)

・全国20大学地球科学系学科長会議と協力して, 全国の主要大学の地質系教室へのアンケート調査を実施し, 特に入学者, 進学者, 就職先等の統計から, 地質科学分野の人材動向について把握した。日本地質学会の入会者の動向も考慮しながら検討した。結果はニュース誌に報告する。

2018年9月4日

一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長 (代表理事) 松田博貴
署名人 執行理事 斎藤 眞

2018年度第3回執行理事会議事録

期日: 2018年9月4日 (火) 13:00~14:30

場所: かでの27 730研修室

出席者: 松田会長 佐々木副会長 平田副会長 齋藤常務理事 (遅刻) 安藤 大藤 磯崎 ウォリス 緒方 岡田 小宮 坂口 辻森 中澤 廣木, 狩野議長, 杉田副議長 (事務局) 橋辺

欠席者 (委任状提出あり, カッコ内委任者): 田村 西 星 (松田)

* 定足数 (12, 委任状含む) に対し, 出席者 15名, 委任状3名, 合計18名の出席。

* 前回議事録を承認

I 審議事項

1. 理事会議事関連事項および議事確認
2. 地質学会各種委員会の再編・統合について: 佐々木副会長を中心に, 各種委員会活動の実態把握の上で検討していく。

3. 地質学会主導の大型研究マスタープランについて: 学会での対応の現況について確認し, 札幌大会の夜間小集会 (9/7) でも関係者で検討する

4. ジオルジュの発行について: 広報拡大・出版経費削減策を理事会の審議事項にする。

II 報告事項

1. 全体的報告

1) 古関東深海盆ジオパーク協議会より, 千葉セクション申請取り下げ要望に関する資料が会長あてに来信

2) 今年度の各賞選考委員として, 職責委員の岩森・中澤の現副編集長の2名が漏れていたため, 追加する。

2. 運営財政部会: 総務委員会 (緒方・西) <共催・後援依頼, 他団体の募集等>

1) 2019年度笹川科学研究助成の公募 (募集 9/18-10/16), 学術研究部門100万円 (院生, 35歳未満の任期つき雇用研究者), 実践研究部門50万円 (博物館, NPOに所属者) ←geo-flash, HPに掲載済み

2) 山田科学振興財団より留学費助成の募集, 2019/4-2020/3までに出発の者, 身分, 経歴年齢不問, 応募期間8/1-10/31 ←geo-flash, HPに掲載済み

3) 長野県環境部から環境保全研究所の地形・地質研究職員募集, 受付期間8/27-9/21 ←geo-flash, HPに掲載済み

4) 石油技術協会より平成30年度秋季講演会 (11/1, 東大) の協賛依頼がありこれを承諾した。

5) 兵庫県立博物館より県政150周年記念国際シンポジウム「巨大恐竜, 竜脚類の謎に迫る」(12/8開催) の後援依頼を承諾した。

<会員>

1) 今月の入会者 (3名)

正会員 (2名): 東 豊一, 小野紗也香

正 (学部割引) 会員 (1名): 津久井脩平

2) 今月の退会者 なし

3) 今月の逝去者 (名誉会員 1名)
小林英夫 (2018年8月14日)

4) 2018年7月末日会員数

賛助: 28, 名誉: 56, 正会員: 3601 (正会員: 3417, 正 (院割) 会員: 176, 正 (学部割) 会員: 8) 合計3685 (昨年比 -57)

<会計>

1) ジオルジュの来年度の発行に関して, 理事会の審議事項とする。

2) 巡検の支払いに関して: 巡検の経費余剰を参加者に返却したいとの希望があったが, 巡検参加費は最初に設定し, 会計に繰り込んで配分するので, それを個別に対処するのは難しい。また, 赤字になった場合でも, 追加支払いを要求することはできない。巡検に関しては, 事務経費等も掛かっていることなどから, 完全に独立採算というわけでもない。以上のような理由から, 従来通り巡検費用は赤字, 黒字を問わず, 本部会計に任せてもらうこととした。

3) 年会会場費確定: 当初予算から総額は150万円アップの見込 (総額250万に達する可能性)。今後の大会開催に際しては, 事前の見積もりを慎重に行うよう注意する。

3. 広報部会: 広報委員会 (坂口・小宮)

・一家に1枚ポスター企画は2件とも書類審査を通り, 現在Webにて一般アンケート (投票) 実施中, プレゼンは9月20日に行われる。

・9/4 第125年学術 (札幌) 大会のプレスリリースを行った。

4. 学術研究部会 (磯崎・ウォリス・岡田・辻森)

(1) 行事委員会 (岡田)

・台風21号に備えた対応を検討し, 発表者が学生の場合には昨年同様の措置をする。大会行事に関する情報は, 大会HP, ジョフラッシュの確認を会員に広報した。

(2) 国際交流委員会 (ウォリス)

・国際シンポジウム (MOU締結5学会: 英・タイ・韓国・モンゴル・台湾) の招待者5名 (家族3名), 来賓 (韓国副会長), 国際賞1名 (Coffin氏) の方々と連絡を取り合った。

・シンポジウム (9/6) 後の昼食会での交流・情報交換を行う

(3) JIS, 標準担当 (中澤): とくになし。

5. 編集出版部会 (大藤・田村)

(1) 地質学雑誌編集委員会 (大藤編集委員長)

1) 編集状況報告

2) 125周年記念特集号状況 (2018年8月現在)

3) 編集委員会委員一覧の確認 (理事会承認事項)

(2) アイランドアーク編集委員会 (板木氏: 前Executive Editor; 編集長 (武藤, 田村) 代理)

1) 出版状況報告, その他]

Wiley側との打ち合わせ報告

- ・プロモーション活動について (Wileyからの提案): Open AccessによるIF向上策など
- ・編集作業工程・分担, 査読過程の効率・短縮化 (特に論文スタイルチェック)
- ・英文Abstractの和訳 (日本人著者がいない場合は非掲載, 2018年より)
- ・Accepted manuscriptのOnline掲載について

2) 編集作業経費 (学会負担) について

作業内容の検討中であり, 軽減できる可能性はあるが, その場合には経費が必要である.

(3) 企画出版委員会 (小宮)

6. 社会貢献部会 (星・廣木・中澤)

- ・第19回地震火山こどもサマースクール in 伊豆大島ジオパーク報告
開催日: 2018年8月7日 (火) 台風13号接近のためプログラムを1日予定変更して実施した.

場所: 伊豆大島ジオパーク

参加者: 34名 (小学生21名 中学生8名 高校生5名)

第20回 (2019年) は京都で開催予定

7. 地質技術者教育委員会: とくになし

8. 地質災害委員会 (松田達生, 代理 齊藤)

- ・日本学術会議と防災学術連携体による西日本豪雨に関する緊急報告会の開催 (9月10日). 会員に呼びかけ, 西日本支部の越智会員からの発表を申し込むこととした. 演題: 花崗岩の風化特性とそれに応じた砂防・治山のあり方について~8.20広島豪雨災害と西日本豪雨災害の現場から~
- ・緊急調査 (越智会員) についての問い合わせの件

9. ジオパーク支援委員会 (平田)

- ・125年学術大会 (札幌) にて, 9月7日にランチョンを開催予定. 各ジオパーク間の連携について検討する.

10. 地学オリンピック支援委員会 (星, 平田代理)

- ・第12回国際地学オリンピック・タイ大会報告
開催日: 2018年8月8日~17日, 38か国・地域, 139人参加

日本代表は金メダル3, 銀メダル1を獲得

11. 県の石支援委員会 (辻森, 松田会長)

- ・8/24に松田会長が仙台に向き, 井龍委員長と県の石の出版の今後について話し合った. 標本・試料写真撮影作業工程の再検討を要する.

12. 125周年記念実委員会 (矢島)

- ・記念式典等について理事会で報告をする.

2018年10月20日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会長 (代表理事) 松田博貴

署名人 執行理事 斎藤 真